二〇二一年度　田園調布学園大学

全学部全学科専攻　共通

国語　入学試験問題

一般選抜（個別試験型）全学統一日程

受験番号

（注意）

一、解答は、すべて別紙の「解答用紙」に記入してください。

二、受験番号と氏名は、「問題用紙」と「解答用紙」の両方の所定の欄にかならず記入してください。

三、「問題用紙」と「解答用紙」は、試験終了後、かならず提出してください。

四、「問題用紙」に「下書き」「書き込み」などをしてもかまいません。

五、試験時間は**六〇分**です。

氏名

（一）　次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

たとえば年のころ三十代、四十代あたりの既婚者たちが、お盆休みに帰省するとかしないとか、あるいは二世帯住宅における覇権問題とかいうような話をしていたとします。そして、そのうちの一人が、「うち、マスオさんなんだ」と言ったとします。そこですかさず、「いいなあ。その方がいろいろ気楽かもねえ」と返すためには、単なる日本語力以外の、知識と教養というものが必要になります。

すなわち、マスオさんとはあの国民的四コママンガおよび超長寿アニメ番組の主人公サザエさんの夫君であり、幼い息子のタラちゃんともども、妻であるサザエさんの両親の家に同居している、といった知識が必要なのです。それが身についていなければ、「いいなあ」とも「気楽かもねえ」とも、何とも応答のしようはないでしょう。

あるいはまた、早春の公園の池のほとりに鴨が点々と並んでいて、しかもそれが二羽ずつカップルになっていて、さらにその上カップル間の距離がほぼ等しい、などという情景に出くわしたとき、おごそかに「おお、①鴨川の法則であるな」とつぶやくことができるかどうか。これも日本語力とはまた別の知識と教養がものをいう場面です。

ある言語が使えるというためには、その言語の語彙と文法を身につけるだけではなく、当該の時代におけるその言語の話者の大多数が知っているであろう「どうでもいいこと」をも知っていることが望ましい。それがないと、会話の流れに乗りそこねたり、冗談が理解できなかったりするのです。でも、困ったことに、こうしたことは辞書には載っていません。ではどうするか。

幸いなことに、今は何でも検索すれば出てくる。頭の中に知識をa蓄えていなくても、ちょいちょいと手もとの②石板状の機器をいじれば、そこに答えがころがっている。だから、その手の知識と教養に不足のある外国人学習者であっても、「マスオさんて誰？」とか、「鴨川？　あの京都の川がどうかした？」と気づくことさえできれば、サクッと検索をかけて、すぐにナルホドと納得できることでしょう。あるいは目の前の日本語ネイティブに聞いてもいい。

問題は、「マスオさん」や「鴨川」のような明確なキーワードがない場合です。

もうずいぶん前のことになりますが、駅に続く地下道をせかせかと歩いていて、一枚の地味なポスターに目を引かれました。真ん中に、大きく一行。

遊ぶ暇があったら遊びましょう。

海辺の巨大遊園地の宣伝ポスターでした。せかせか歩き続けながら、思わずうなりました。③うまいなあ。

④けだし、「遊ぶ暇があったら」というフレーズを聞かずに育った子どもはまれでしょう。あとは何も言うてくれるなおっかさん、――願えどむなしく、「勉強しなさい！」「手伝いなさい！」「少しは部屋を片付けたらどうなの！」と続くのがお約束です。そこへもってきての「遊びましょう」です。はっとします。うれしくなります。「遊ぶ暇があったら」の「たら」は、条件節を作る働きを持っていますが、お小言の場合は、「もし仮に遊ぶ暇ができたとして」という仮定条件ではありませんよね。「ほほう、お前には遊ぶなどという非生産的な行為にうつつを　A　時間があるのだね。それくらいなら……」です。仮定条件ではなく、確定条件の「たら」です。

もちろん、「もうちょっと遊ぶ暇があったらなあ」とか、「もし遊ぶ暇があったら温泉でも行きたいねえ」と、仮定の話に使うこともできます。ですが、大方の日本人は、唐突に「遊ぶ暇があったら」と話しかけられるや、瞬間的に、おのれの子ども時代を思い出し、「ああ叱られる……」

という想念にスイッチが入るのです。右のポスターのコピーがbシュウイツなのは、そのようなスイッチの存在を見越しているからです。見越しておいて、その上で「遊びましょう」と楽しげに誘うから、言われた方は二倍うれしくなるというしくみです。

こうしたスイッチを持たない人に、このコピーを百パーセントおもしろがることはできません。日本語学習者には、きっと説明が必要でしょう。しかし、このような、定型表現とも言えないほどゆるやかな「決まり文句」を辞書に載せるのは、cシナンの業です。それ以前に、よほど勘のいい人であっても、そもそもここに「定型性」があることに、なかなか気づかないでしょう。気づかなければ、質問もしないし、検索もしない。⑤しなくても文の論理的意味は理解できますから、「わかったような気」になってしまって、そこで終わってしまいます。

同じころ、新聞の全面広告に、こんなのを見つけました。

トンネルの向こうへ。――越後湯沢

一面ベタ黒にこれだけが大きな白抜きの文字で、その真下に小さなカマボコなりの白い図形があり、さらにずっと下の方に小さく「今年は　B　生誕一〇〇年」とありました。白いカマボコ形は、明らかに、トンネルの出口の⑥意匠でしょう。

国土の約七割を山地が占める日本です。トンネルなどいくつあるやら知れませんが、この場合のトンネルは高速道路のそれなどではなく、断じて鉄路のものでなければなりません。そしてこの広告を見た人々の脳内には、間違いなく「抜ける」とか「雪国」、さらにうまくすれば「温泉」といったキーワードが浮かぶはずです。そして、その鉄路の上を走る列車は、もちろん下り方向のものでなければなりません。

少なくともこの広告を打った人たちは、それを期待したに違いありません。「さあ、トンネルを抜けて雪の越後湯沢へいらっしゃい」と。でも、これだけの期待をdホショウする情報は、いったいどこに、どのように準備しておけばいいのでしょうか。国語辞典の「トンネル」の語釈に盛り込むのは無理があります。引用句事典には当然記載があるでしょうが、「国境」も「抜ける」も「雪国」もないこのコピーだけで、何らかの「引用元」の存在を感知できるような人だったら、そんな人は初めから引用句事典を引く必要など感じないでしょう。

さらに別の例。世界最小の新システムをe搭載した腕時計なるものの発売を知らせる広告に、こんな一句がありました。

そういえば、秋は、小さいものを見つける季節。

なにゆえ「そういえば」なのであるか。外国人学習者でこれがスッと理解できる人は少ないでしょう。でも日本で生まれ育った人だったら、かなりの確率で、これを見た瞬間、「ちーさいあーきーちーさいあーきーちーさいあーきーみーつけたあ～♪」という歌の一節が無条件に頭の中で鳴り出し、ついでに「たあ～」のところで自分の声が裏返る感覚までよみがえるでありましょう。こんなことも、⑦どうして「そういえば」なのか、と気づいて質問しない限り、「正解」にたどりつくことは極めて困難です。

そんなこと、どうだっていいじゃないかと言われればそれまでですけれど、日本語学習者には、何とかしてこうした「目に見えないカギ」にも気づいてほしい、そして丸ごとの日本語を楽しんでほしい、と思うのです。このことは、百年後の日本語母語話者にも当てはまることです。時を経てこれらの言語資料が未来の研究者の目に触れたとき、果たして⑧十全の解釈がなされるでしょうか。現に今、私たちが過去の日本語資料に対するとき、同じ不安を抱かずにいられるでしょうか。清少納言のエッセイには、まだ何か私たちが見落としているおもしろい「カギ」が隠れて

いるかもしれません。ことは、日本語話者が外国語を学ぶときも同じです。その時代の流行りもの、話題になったＣＭ、ごく短期間、冗談のタネになったニュースなどなど、どうでもいいようでありながら、知らないとオイシイ部分を味わいそこねてしまう、そんな「定型表現」はたくさんあるはずです。

清水由美『日本語びいき』（中公文庫）中央公論新社　2018　pp.175-181

問一　二重傍線部ａ～ｅについて、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二　傍線部④「けだし」、⑥「意匠」、⑧「十全の」について、本文中の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

④けだし

ア　とはいえ
イ　ただし
ウ　まさか
エ　もしかしたら
オ　たしかに

⑥意匠

ア　考え
イ　主張
ウ　たとえ
エ　デザイン
オ　もくろみ

⑧十全の

ア　過不足のない
イ　欠けることなく完璧な
ウ　かなりの時間をかけた
エ　すべてが納得のいく
オ　あるだけ全部の

問三　傍線部①「鴨川の法則」とは、どういうことか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　京都鴨川の川岸で、カップルが自分たちと同じ番(つが)いになっている鴨を見ていること。
イ　京都鴨川の川岸に、毎年鴨がたくさん飛来してなごやかにすごしていること。
ウ　京都鴨川の川岸で、語らうカップルの間隔が、自然に等間隔になること。
エ　京都鴨川の川岸では、人々は等間隔にすわらなければいけないこと。
オ　京都鴨川の川岸には、初春になると鴨とカップルが増えるということ。

問四　傍線部②「石板状の機器」とはこの場合、何を指しているか。簡潔に答えなさい。

問五　傍線部③「うまいなあ」と筆者が考える理由を百字以内で説明しなさい。（句読点や記号を含む。）

（下書き用）

問六　空欄Ａに入ることばをひらがな三文字で答えなさい。

問七　傍線部⑤「しなくても文の論理的意味は理解できますから、「わかったような気」になってしまって、そこで終わってしまいます」とはどういうことか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　日本語の論理的意味は理解できるが、そこにこめられた深い意味を自己流に解釈してしまい、誤解に終わってしまう。
イ　日本語の文字通りの意味は通じるけれども、そこにしかけられている楽しさまでは理解していないから、本当の意味での理解にまで達していない。
ウ　日本語の文字通りの意味を理解できるだけに、論理的に関係のない情報を不用と

判断してしまい、表現の面白さを味わうことができない。

エ　日本語の文法や語彙は学んでいるので、意味がわかっているように思っても、実は複雑な文章になると理解できていない。

オ　日本語の表現には論理的意味だけでなく比喩的な意味が隠されていて、片方だけ理解できたとしても、真の意味で日本語を理解出来たとは言えない。

問八　空欄Ｂに入る最も適当と思われる人名を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　芥川龍之介　　イ　川端康成　　ウ夏目漱石　　エ　三島由紀夫　　オ　森鷗外

問九　傍線部⑦「どうして「そういえば」なのか」のように、日本語学習者から質問を受けたら、どのように答えるか。三十字以内で簡潔に答えなさい。（句読点や記号を含む。）

（下書き用）

問十　右の文章の主旨として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ある言語を学ぶ際に、語彙や文法などを身に付けるだけなく、その言語の話者ならたいてい知っている、どうでもいいような知識や教養を知ることによって、その言語の面白さが理解できる。

イ　日本語を外国人に真に理解してもらうためには、「マスオさん」「鴨川の法則」「遊ぶ暇があったら」のような、日本語の話者の大多数が知っている「どうでもいいこと」に関する引用句辞典が必要である。

ウ　ある言語を学ぶということは、文法や語彙を学ぶことではなく、その時代の流行りもの、話題になったＣＭ、ごく短期間、冗談のタネになったニュースなど、言語力とは別の知識と教養を身に付けることである。

エ　私たち現代人が清少納言のエッセイを読む場合、そこに流れる平安時代の人ならだれでも知っていたような情報を今さら知ることができないので、文章の意味を理解していると思っても、実はわかったような気になっているだけである。

オ　どうでもいいようでありながら、知らないとオイシイ部分を味わいそこねてしまうような言語の知識と教養を得ることによって、外国人学習者であっても、会話の流れにのることができ、冗談をも理解できるようになる。

（二）以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

推敲とはつまり文章を作る際に、aジクや表現を何度も練り直すことで、わたし自身のことで言えば詩を作る上で、若いころはあまり推敲しないほうだった。しかし次第に、すらりと書けて一字も加筆削除訂正の必要がない、ということが少なくなった。その推敲について、わたし自身の例をあげて考えを述べたいと思う。一年程前だったと思うが、「ビワの木」と題する次のような詩を書いた。

これまででいちばん美味しかったのは
と問われれば
娘が子どものころ植えた種から芽吹いたビワが
初めてつけた実三つほどと答える
その後繁りに繁って隣家の玄関に
大きな影を落とすようになったので
先日ばっさばっさと枝を切り落とした
今日　二階の窓から
誰かが書斎を覗く気配があり
はっとして顔を上げると
細くなったそのビワの木の先っぽが
ガラス窓の左隅でゆれた
あまり切らないでよ　と
声を聞いたようだった
いずれ梯子をかけて
切ろうと思っていたところだった

詩を一編書き上げると、すこし寝かせておくようにしている。一週間後、取り出して目を通したが、どうも満足できない。二稿目、一行目～七行目をばっさり削除した。また寝かせておきまた目を通した。前よりはすっきりしたが、どうも終わりの部分が気に入らない。特に「あまり切らないでよ」というくだりはb陳腐この上ない。①B級の童話のせりふみたいだ。そこであちこち手を入れ、四稿目で次の決定稿となった。

だれかが背伸びして
二階の書斎を覗いている
と思ったら
ビワの木の先端だった
娘が子どものころ種を植えたのが
よくもまあ育ったものだ
陽光を大幅にc遮るので今日あたり
ざっくり枝々を切り払おうと思っていたところだった
②機先を制された

推敲と言えば、詩人の場合、山之口貘(やまのぐちばく)(一九〇三～一九六三)を思い出す。わたしはとうとうお目にかからずじまいだったのが残念でならない。沖縄生まれで、斜めから見た人生論とユーモアに富んだ風刺の詩を書いた詩人で、わたしはファンである。詩人は一編の詩を納得いくまで何度も書き直した。娘さんが後年書かれた思い出によると、詩を書き直すために原稿用紙の反故が大量にできて、作品が書き上がると、その反故原稿用紙を束ねて大切にしまったという。その枚数はいつも長編小説なみだったそうだ。だからその詩は不必要な言葉や表現を一滴残さずそぎとった挙句の引き締まった完成品だからこそ、読者の心を捕らえるのだろう。

もうひとつ、詩人永瀬清子(一九〇六～一九九五)の『流れる髪』の中の「まっすぐに」という一文を、詩を書くときにふと思い出すことがある。左記へ引用する。

〈「まっすぐに語られる言葉」というのが散文についてのラテン語の意味だそうだ。明快である。詩は「まっすぐ」ではなく、そこに峯と谷がある事を約束づけられ、光と影のある事が必然となり、故に私らはとびとびに語る。ピークのみを駆け渡り、或いは　A　だけで　B　をはぶく。散文がまっすぐに語られるのはその意味を十分に理解させようという目的であり、詩がまっすぐでなく、とびとびに語られるのは、つまり相手も自分も十全ではなく、何かを落とし、何かを拾う人間同士であると許して、受けとって貰いたいもの、受けとって貰うべきものだけをたしかに届けようとするからである。私らは花壇を捧げる事はできず、しかし　C　ことがわかっている。〉

ここであらためて最初に書いた「ビワの木」に視線を移してみると、まず、果たして行分けの必然性があるのかと疑いが生まれる。最初の四行を続けてみると、

これまででいちばん美味しかったのは、と問われれば、娘が子どものころ植えた種から芽吹いたビワが初めてつけた実三つほどと答える。

となり、これは　D　であって行分けの必然性は見当たらない。つまり「まっすぐに語られる言葉」なのだ。

この詩を生むことになった直接のきっかけは、ある日二階の書斎でいつものように机に座ったら、目の前の窓の下の隅に、はらりと揺れる緑があって、おやと身を乗り出したら、背を伸ばしたビワの木の先端であったということだ。ビワは非常に育つのが速い。前日には見えなかったのだと思う。いわばこれが永瀬清子の一文にある「光」であって、まずそれをこそ冒頭にもってくるべきだと感じた。それに比べて始めの四行は「影」に当たる。もっともわたしはdリクツでそういうふうに考えたのではなく、一種無意識のうちにそうした推敲が行われたと言っていいだろう。それを可能にしたのは、おこがましいが、詩にかかわってきたeサイグツだろう。

最初ビワの木の先端を目にしたときの、一種の驚きと感動なしにこの詩は成立しなかったし、それをこそ読む人に伝えたかった。非日常的な出来事、社会をゆるがす大事件、壮大な大自然の息づかいばかりが詩の種となるのではない。普通の生活の中にある詩を受信するアンテナを錆びつかせないようにしていたい。③全く個人に属する詩が、普遍性を帯びる――それがすぐれた詩だと思う。

川崎洋「あなたの世界が広がる詩」、小学館、1998　pp.33-38

問一　二重傍線部a～eについて、漢字はその読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に改め、楷書で正確に書きなさい。

問二　問題文には次の文章が省かれている。入るべき箇所の直後の文の文頭五文字を抜き出しなさい。（句読点や記号を含む。）

散文では両方必要だが、詩は「光」だけである。

問三　傍線部①「B級の童話のせりふみたいだ。」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　擬人化されたビワの木が「あまり切らないでよ」としゃべるのは、よくある童話の世界を思わせ、子ども向けの幼稚な表現であるということ。
イ　「あまり切らないでよ」というビワの木のせりふは、低級な童話で動物や植物がしゃべるせりふのようで、詩には相応しくない表現であるということ。
ウ　ビワの木の気持ちを「あまり切らないでよ」と擬人化して示すことは、童話の亜流になってしまい、独創性に欠けた表現であるということ。
エ　「あまり切らないでよ」というビワの木のせりふは、二流の童話に出てくるせりふのようで、ありふれたつまらない表現であるということ。
オ　ビワの木の「あまり切らないでよ」というせりふは、冗長な童話のせりふのようで、引き締まった完成品である詩にそぐわない表現であるということ。

問四　傍線部②「機先を制された」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ビワの木は成長が速いので、切っても無駄だと思い知らされたということ。
イ　前日には見えなかったビワが、書斎の窓から見えたので、感心したということ。
ウ　ビワの木を切ろうと思っていたが、その気持ちをくじかれたということ。
エ　切ろうと思っていたビワの木に、その気持ちを見透かされたということ。
オ　ビワの木に書斎を覗かれたようで、驚かされたということ。

問五　二つの詩の説明として適当でないものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア　推敲前の詩は、決定稿の詩に比べ、冗長で散文的なところがある。
イ　推敲前の詩は、筆者が推測したビワの木の感情が示されている。
ウ　推敲前の詩も決定稿の詩も、個人の普通の生活にあるものを伝えた詩である。
エ　決定稿の詩は、推敲前と比べ、永瀬清子のいう「光」が「影」より強まっている。
オ　決定稿の詩は、筆者の感動や驚きの気持ちが描かれていない。

問六　空欄A・Bに入る語を各々本文中から抜き出して答えなさい。

問七　空欄Cに入る表現として、最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　菫の一株がそれに匹敵する
イ　野の草花を摘み取るしかない
ウ　木々に咲く花に憧れる
エ　薔薇の花束がもっと美しい
オ　花園を作ることもできない

問八　空欄Dに入る語を本文中から抜き出して答えなさい。

問九　傍線部③「全く個人に属する詩が、普遍性を帯びる――それがすぐれた詩だと思う」とあるが、筆者は、すぐれた詩とは、どのような詩だと考えているのか。七十字以内で説明しなさい。（句読点や記号を含む。）

（下書き用）

問十　本文の主旨として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　詩は散文と異なり、「光」だけの表現であるから、必ず推敲して「影」の部分を残さないようにしなければならない。
イ　詩人は、不要な言葉をそぎとり、とびとびに語ることで、何かを落とし、受け取ってもらいたいものだけを届けようとする。
ウ　山之口貘が、斜めから見た人生論とユーモアに富んだ詩を書くことが出来たのは、何度も推敲を重ねたおかげである。
エ　筆者は、永瀬清子の「まっすぐに」という一文からヒントを得て、寝かせておいた「ビワの木」の詩を推敲している。
オ　詩の題材は、非日常的な出来事や社会をゆるがす大事件や壮大な大自然の息づかいの中よりも、日常の生活の中にこそある。

（三）　次の文中の空欄にあてはまる最も適当な語句を、選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

①新しい挑戦をする際には多少の（　　）を覚悟しなければならない。
ア　ギャップ　　イ　タブー　　ウ　ポリシー　　エ　リスク

②お客様は旅行金額が補助される制度を（　　）ますか。
ア　ご利用され　　イ　ご利用いたし　　ウ　ご利用になり　　エ　ご利用申し上げ

③すてきな（　　）でどちらにお出かけですか？
ア　いでたち　　イ　さながら　　ウ　しがらみ　　エ　ぬけがけ

④（　　）近所の奥様方にうんざりしている。
ア　口がたい　　イ　口さがない　　ウ　口はばったい　　エ　口ずっぱい

⑤お金は貸してやりたいが無い（　　）は振れないよ。
ア　首　　イ　鈴　　ウ　塩　　エ　袖

⑥昨夜は寝てしまい、通学バスの中で一ページだけ試験勉強。なんとそこから出題があって（　　）だった。
ア　継続は力　　イ　備えあれば憂えなし　　ウ　もっけの幸い　　エ　焼け石に水

⑦わが軍の圧倒的な兵力を見て、敵は尻尾を（　　）逃げ出した。
ア　切って　　イ　出して　　ウ　振って　　エ　巻いて

⑧父は、母と三人の子ども、さらに父の両親を（　　）している。
ア　援助　　イ　扶養　　ウ　示唆　　エ　養育

⑨書類の一部を（　　）したことが発覚した。
ア　異動　　イ　改ざん　　ウ　更新　　エ　歪曲

⑩解雇することで、社員とその家族を（　　）に迷わせることはできない。
ア　生活　　イ　判断　　ウ　路頭　　エ　行く手